

みやぎ中学生 いじめ問題を考えるフォーラム

開催しました！

宮城県教育庁義務教育課

大きな社会問題となっているいじめ問題について、中学生が学校の枠を超えて話し合い、その根絶のために自分たちができることを考える「みやぎ中学生いじめ問題を考えるフォーラム」を開催しました。

平成24年度に始まり、3回目*となった今回は、県内各地（仙台市を除く）から110名の中学生が参加して、「いじめとはどんなものか」「どうしていじめは起きるのか」「いじめ根絶のために自分たちにはどんなことができるのか」についてじっくりと話し合うフォーラムになりました。

- **日時** 平成26年7月31日（木）10:00～15:00
- **場所** 県庁2階講堂
- **参加者** 県内公立中学校生徒110名（仙台市を除く）、教育関係者55名 一般7名
- **講師** ファシリテーター：ALL東北教育フェスタ（大学生・大学院生）27名
- **内容（概要）**

(1) 開会行事

○ 教育長挨拶



高橋 仁 県教育長が「今回の集まりをきっかけにして、各学校でいじめ根絶に向けた取組を進めて

○ 知事メッセージ



村井知事から、県内の全中学生に向けたビデオメッセージをいただきました。

○ 教育委員メッセージ



庄子晃子教育委員会委員長が、「宮城県教育委員会メッセージ」を発表しました。

○ ファシリテーターの紹介



ワークショップのお世話をしてくださったファシリテーターの方々を紹介しました。

今回もファシリテーターとして生徒たちの話し合いをサポートしてくださったのは、ALL東北教育フェスタに参加している県内外の大学生・大学院生のみなさんです。代表の鈴木啓展さん（東北福祉大学3年）と実行委員の阿部綾夏さん（宮城学院女子大4年）が代表で挨拶してくださいました。

*第1回は平成25年2月に中学生を対象に、第2回は平成25年8月に小学生を対象に開催しています。

(2) アイスブレイク



ファシリテーターの合図で名刺交換が始まりました。違う学校の初めて会う生徒同士が、緊張を解き、互いに打ち解けて話し合える雰囲気をつくることは重要です。宿題として各自15枚ずつつくってきた手作りの名刺は、次々に新しい友達の手へと渡っていきました。

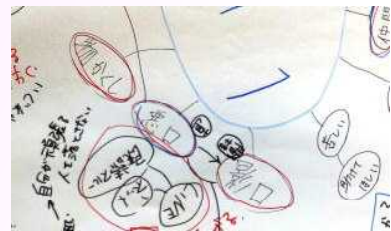
(3) ワークショップ

今回のワークショップは、生徒5人に1人のファシリテーターが付き、22のグループに分かれて話し合いを行いました。また、話し合いを7分ほどのセッションに分け、グループのメンバーが次々に入れ替わる「ワールドカフェ」という手法を用いました。生徒は、自分のグループで話し合ったことを新しいメンバーに伝えます。新しく加わったメンバーも、自分のグループでの話し合い内容を伝えます。こうして、様々な見方、考え方に触れることで、生徒一人一人のいじめに対する考え方が深まってきました。



① いじめとはどんなものか

「いじめって、どんなものかなあ。」ファシリテーターが問いかけると、「はぶられる」「悪口を言われる」「無視」「物隠し」・・・生徒がイメージするいじめが次々に出され、模造紙に書き込まれていきます。「暴力を振るわれると心も体も痛い。」「陰口を言われると、誰も信じられなくなる。」「LINEで悪口を書かれた。LINEは日常会話みたいに軽いので、思ったことをそのまま書くことが多い。だから、そんな気がなくても相手には悪口になってしまうことがある。」



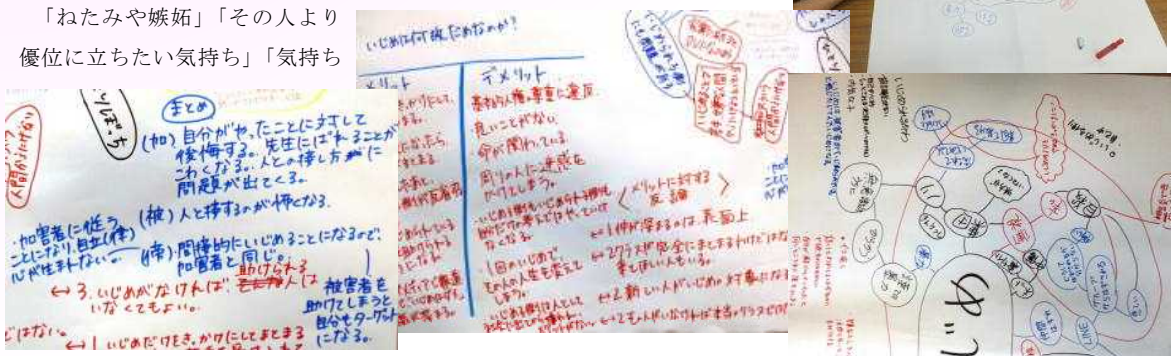
今回、ファシリテーターは、話し合いの進行役になるのではなく、自らも積極的に討論の中に入って行って、メンバーの一人として自分の意見も言うことにしていました。時にはやや挑発的な意見を言ったり、時には深く共感したりしながら、生徒たちの心の声を拾い集めていました。そして、自分たちと年齢の近い大学生ファシリテーターからの問いに答えながら、生徒たちは、次第にいじめと真剣に向かい合い始めていきました。

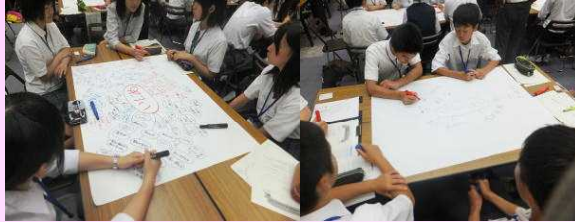
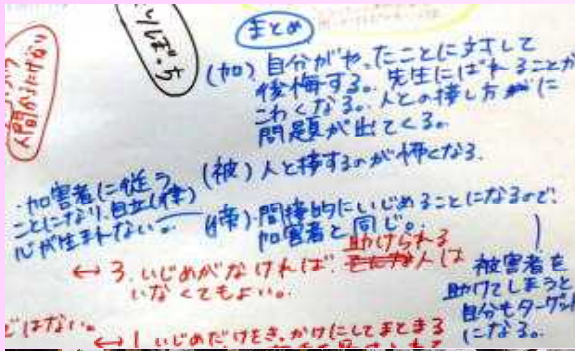


② どうしていじめは起きるのか

ワークショップの第2部は、「いじめはどうしてダメなの?」というファシリテーターの問いから始まりました。

「ねたみや嫉妬」「その人より優位に立ちたい気持ち」「気持ち





のすれ違い」「ストレス発散」「遊び」「嫌な思いをさせた」・・・生徒たちの生の声が模造紙に書き込まれ、紙面は生徒たちの思いや考えで埋まっていました。

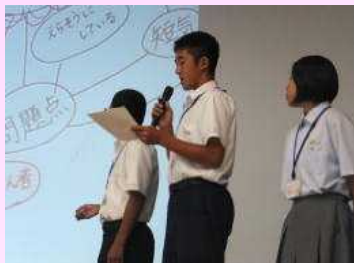
③ 自分たちにはどんなことができるのか

「挨拶されたのに気付かなかっただけなのに。」「いじめは、無視からどんどんエスカレートしていくから怖い。」

いじめの辛さや怖さ、いじめられる側の苦しみや悲しみ、いじめる側の浅はかさ等々について話し合ってきた生徒たちは、話し合いの最後に、そんないじめをなくしていくために、自分たちに何ができるのかを話し合いました。

参加した生徒の多くは、生徒会の役員や学級のリーダー達。自分の学校からいじめをなくしたい、いじめのない学校にしたいという真剣な思いで、学校に戻って自分ができることを考えていました。

<生徒たちの考えは、アンケートに書かれた感想をお読みください。>



④ 発表と共有

ワークショップの最後に、いくつかのグループが話し合いの過程を発表し、参加生徒全員でワークショップの振り返りを行いました。全てのグループに発表してもらいたいところでしたが、時間の関係で一部になってしまったことが残念でした。各学校を代表して参加した生徒たちの発表はとて堂々としていて立派なものでした。

(4) 閉会行事

① 感想発表

今回のフォーラムを振り返って、代表の2人が感想を発表しました。緊張しながらも、いじめ根絶に向けて取り組んでいきたいことを堂々と発表する2人の姿を見て、宮城県の学校からいじめが根絶される日が必ず来ることを確信しました。



代表の二人が感想発表をしました。いじめ根絶に向けて、学校に戻ってから取り組みたいと堂々と発表していました。

② 講評（宮城県教育庁義務教育課長）



最後に、桂島晃義務教育課長がいじめの残酷さが生み出す悲しみを表した絵本を朗読して今年度のフォーラムを締めくくりました。朗読が終わった後も静まりかえったままの会場で、生徒たちは「今、皆さんができることから実行してください。今回の集まりをきっかけとして、各学校でいじめ根絶に向けた取組が、これまで以上に広がっていくことを強く願っています。」という県教育長の言葉をかみしめているようでした。

最後に絵本を朗読してフォーラムを締めくくりました。